



# 夢風 YUMEKAZE

第62号(平成25年度 No.7)



春。出会いと別れの季節です。先月は豊田東高校のその年の集大成である「総合発表会」が盛大に行われました。そこで発表したものは、それぞれの活動のゴールではなく、さらなるスタートでもあります。今号では、卒業式前後の様子を含め、その後も継続して行われている様々な活動を紹介します。

豊田東高校公式 Web ページ → <http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp/>

夢風メール(豊田東高校総合学科推進部) → [yumekaze@toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp](mailto:yumekaze@toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp)



ニュース  
News



## ● 予餞会

卒業式に先立ち、2月14日に予餞会が行われました。生徒会企画として豊田東高に関するクイズや、3年間の様々な場面を集めた映像、転動された先生方からのお祝いのメッセージがありました。3年生の先生たちの創作劇(右写真)もあり、会場は感動に包まれました。3年生全員へのメッセージとして「絞り出せ」という話がありました。これは辛い時ほど考えや気持ち、力を絞り出すようにしてくださいという意味です。今後の夢の実践をしていくステージでは、夢を忘れかけたり、失いかけてくるような場面が出てくるかもしれません。そんな時に思い出してほしい言葉です。巣立っていく今だから、生徒の皆さんに響く言葉であると思います。共に過ごした3年間と、友と切磋琢磨していくこれからの人生に思いを馳せながら、東高の絆も感じることでできる感動的な予餞会でした。

## ● 卒業式

2月28日に第55回卒業証書授与式が行われました。3年間の日々を思い起こす最後の企画として「入場前に担任の先生方からメッセージをもらう」を行ったところ、この場面から目頭を熱くする生徒もいたようでした。もちろん担任の先生方の目頭も熱いままの入場となりました。

卒業証書授与式では、呼名の際、大きな「はい」という声が会場全体に響き、それだけで卒業生の式に臨む凛とした姿勢が伝わってきました。校長先生の式辞で述べられた言葉を胸に高校3年間をひとつの区切りとして新たな気持ちではばたく準備ができたのではないかと思います。答辞では、卒業生の頭の中に入学式から一つ一つの思い出を共有しながら聴いている様子が伝わってきました。徐々に涙する生徒の数が増えていき、答辞が終わるころには半数以上の生徒の眼から涙がこぼれていました(左写真)。今年は特に、男子生徒が泣く姿が新鮮な感じがしましたが、それだけ学校生活に思い入れを持って生活

してきたのだと思います。校歌の3部合唱では、生徒たちは涙など気にせず大きな声で歌っていました。退場する際には学年主任、各担任の先生に対する感謝の気持ちを大声の「ことば」で表していました。

教室に戻ってからの「最後の授業」や部活動での謝恩会など、名残惜しい気持ちはいつまでも続いていました。

それぞれの「夢の実現」に向けてはばたく皆さんの卒業をお祝いするとともに、第55回生のさらなる活躍を期待します。卒業おめでとうございます♪



## ● 矢作川学校ミニシンポジウム

3月1日、豊田市矢作川研究所が主催する矢作川学校ミニシンポジウムにおいて、2年生理プランが中心となって実施してきたサイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)の成果発表をさせていただきました。タイトルは「矢作川『森と川の健康診断』～放置人工林

と外来生物の問題から持続可能な社会を考える～」。環境問題をベースにESD(持続可能な開発のための教育)の視点を盛り込んだものです。校内の「総合発表会」で紹介した内容を修正・発展させ、外部にも発表させていただきました。このミニシンポジウムには、平成20年度以降継続して参加していますが、大学生や大学院生、他の高校生たちと学び合う発表会は、矢作川流域で活動するプロの研究者、在野の有志からもコメントをいただく貴重な場となっています。今年度は、東高のSPPに興味・関心を持って一緒に活動した中学生や、本校を卒業した大学生たちの参

加・発表もありました。本校の卒業生は、数年前にやはりこのミニシンポで発表した理プランの生徒たちです。大学3年生でありながら既に研究室に所属し、意欲的に研究活動を行っています。

ともすれば、大学に入ることがゴールになりがちな高校の進学指導において、豊田東高校の生徒たちは、むしろ大学に入ってから大きく花が開くケースが多いように思われます。

最近、何かと話題にのぼっている「リケジョ」。本校の卒業生は、「矢作川」で学んだぶれない信念を持って活動していることが何よりの誇りです。

## ● 梅坪小学校区子ども会へのボランティア参加

3月2日、梅坪小学校区子ども会「合同歓送迎会」に、豊田東高の生徒・卒業生たちが地域連携の一環として参加させていただきました。小学生や保護者、300名ほどの会です。

中部日本吹奏楽コンクールにも出場した吹奏楽部の演奏は、圧巻でした。体育館という演奏には不向きな場をむしろ有効に活用して、「ルパン三世」や「名探偵コナン」など、親子が楽しめる楽曲を披露しました。様々な楽器で奏でたアレンジ版「森のくまさん」は、吹奏楽の「楽しさ」を十二分に伝えることができたのではないのでしょうか(右写真)。

なお、吹奏楽部の演奏を含めた「文化部総合フェスティバル」が3月25日(豊田市コンサートホール)、26日(豊田市民文化会館小ホール)で開催されます。本格的なホールでの演奏、発表、展示を企画していますので、足を運んでいただければ幸いです。

この合同歓送迎会では、本校をこの春卒業したばかりの保育プランの生徒たちによる児童劇も披露されました(左写真)。例年、総合発表会での発表をもって「終わり」を告げていた児童劇ですが、今年は「本物」の子どもたちの前でも披露することができ、保育系の四大・短大に進学した生徒たちにとって大きな学びの場となりました。卒業後の「有志」であったにも関わらず、保育プラン25名が全員参加しました。キャリア教育の真髄を見たような気がして涙が流れました。



豊田東高校「リケジョ」の系譜  
左・右の大学生が本校の卒業生

